

2021年1月5日

2021年年初にあたって

中京大学学長 安村 仁志

明けましておめでとうございます。昨年は世界中がコロナ禍に苦しみましたが、新しい年は人類の叡智をもってこの試練を乗り越えていく、希望につながる年になりますようにと願います。

Adversity makes a man wise. (艱難汝を玉にす。困難は徳の基)

昨年は全世界が COVID-19 に翻弄された試練の一年でした。感染拡大への対応は、強い防止策—一定の効果—緩和—感染再拡大—防止策再強化と、「人間のいのちを守る」—「経済的ダメージを回避する」の間で一進一退でした。人類はこれまでもたびたびパンデミックに遭遇し、多大な犠牲をはらいながらワクチンの開発等を通じて乗り切ってきました。「逆境 **adversity**」は、克服する“技”を開発させ、長寿社会を生み出しました。しかし、今回辛いことはなるべく忘れたいという心理、緊張感の維持の難しさという手ごわさにも直面しています。自粛生活の中で、人間は「自律」と、文字通り“人”との“間”で生きるものとして、「人と話したい」、それによって「気を紛らわせたい」という思いとの葛藤のうちにおかれています。

Vows made in storms are forgotten in calms. (喉元過ぎれば熱さを忘れる)

vow とは「誓い」という語ですが、試練の中での決意が風化しないようにと願わされます。経験はいろいろなことを考えさせ、新しいことにチャレンジさせます。とりわけ「試練」は、自身が“試され”、それまでとは異なったことを“試し”、それらを通して“練られる”チャンスを与え、多くを学ばせてくれるものですが、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」のごとくつらい経験を無駄にしてしまうことのないようにしなければなりません。現在の試練を通して、確実に、人類レベルで、**wise** にされたいものです。

A wise man is never less alone than when alone. (賢者は一人だけのときが一番寂しさを感じない)

昨年の春学期、本学は全学的にオンライン授業を行いました。学生たちは、通学して、友と一緒に、教員から直に授業を受けることができず、自宅・自室でパソコンに向かう学修、ゼミ活動や部活もままならず独りの生活 (**alone**) を余儀なくされました。教員も教育・研究活動で、職員も学生指導において、多かれ少なかれ不自由さ・寂しさ (**alone**) を味わいました。社会でも、子どもから高齢者まで、それぞれ「独りの寂しさ (**alone**)」と戦わねばなりませんでした。

本学は、春学期通学できなかった学生たち(特に新入生)のそうした気分を考慮して、秋学期は大規模授業を除いて基本「通学対面授業」に舵を切り、もう少しで完了となっています。

大学は教育機関であり、学びの府です。本学は「自ら考え、行動できる、しなやかな知識人の育成」を長期計画 NEXT10 の教育目標にしています。建学の精神の4大綱「ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ」も、“そうありたい”“そのように生きたい”との思いを促す具体的な指針です。複雑・多様化する世界に自身を大事にしつつ、他人(ひと)をも大切に、共に、そしてしなやかに生きる学生を育てていきたいと改めて強く思われています。

serenity to accept what cannot be changed, courage to change what should be changed, wisdom to distinguish the one from the other (Reinhold Niebuhr の有名な言葉)

変えられないものを受け入れる心の平静 (**serenity**)、変えるべきものを変える勇気 (**courage**)、変えることのできないものと変えるべきものを識別する知恵 (**wisdom**)

新しい年がどんな年になるか、いや、どんな年にしていくかが問われます。大学にとっては、2021年度の教育をどのように行っていくかが問われます。COVID-19 発生の2019年—翻弄された2020年—新たに向かう2021年と、時はつながっています。

現時点では感染状況が収まることを期待して、春学期は通学対面授業を基本とする予定ですが、昨年の経験を踏まえるとともに post Covid-19 を見据え、本学の教育方針に照らしつつ大学教育の在り方から考えていきたいと思っています。「post Covid-19 の本学の教育・授業について考える」をテーマに検討を開始しています。視点は、「コロナが突き付けているのは、**経験したオンライン授業を踏まえ、対面授業の意味・大学の教育の意味を改めて問い、今後の在り方を求めていくこと**」とし、〈制度としての対面授業〉、〈教員にとっての対面・オンラインという授業形態〉、〈オンライン授業の実施で気づき今後活かしたいこと—その課題・負の部分の検証(メンタルの要素、大学とは何かも考慮して)〉、〈対面型授業の積極的意味の再構築と実現〉を考え、この先の大学の課題を問い直すことを通じ、来年度の授業にも反映できるよう進めています。その過程で、**変えてはならないものを冷静に見定めて守る、変えなければならないものは勇気をもって変えていきたいものですが、深い洞察をもって両者を識別しなければなりません。**言うは易しの課題ですが、これに前向きに取り組まないでは今後の本学はないと思っています。今回のオンライン授業経験については、様々な意見・考え方がメディアにもあふれていますが、流されることなく、「冷静さ」「勇気」「智」を働かせ、本学の確固たる方針を見出してまいります。

Students take the leading role at university. (大学の主役は学生)

学生たちがカリキュラムに沿った学びにおいても、課外活動においても存分に学生生活を謳歌し、しなやかな知識人として育てていく大学でありたい、そのための環境整備を大学としては常に努めてまいります。今一番心したいのは、このコロナの影響で経済的に困って休学や退学に追い込まれる学生が出ないようにすることです。各種の奨学金のほかに、本学独自の一律支援金の給付を行い、特別給付奨学金(ともに留学生も含む)を設けて必要な時の利用を促しています。また、休・退学願、学費延納願を出す学生には親身になって相談に乗るようにしています。学生支援の一環として、相談・支援の多様化に対応すべく、「学生支援センター」を増設します。また、学生が自主的にプログラムを企画して取り組むことを支援する「学生チャレンジ奨励金」制度を続けます。名古屋六大学の協力事業として、来年度各大学の学生が名古屋のさらなる発展を目指すテーマを設け、分野を超えて提言をまとめるような取り組みをします。「他流試合」の場となって大きく成長できるよう願っています。

昨年度の卒業式は Web としましたが、学生たちも友人と一緒に学生生活を締めくくりたいと願っていますので、今年度は感染防止策を徹底して 3 月 19 日市民会館で三回に分けて行う予定にしています。

日経 B P コンサルティングの「大学ブランド・イメージ調査 (2019-2020)」によれば、本学は東海地区のブランド総合力で名古屋大学に次いで第 2 位(前回第 3 位)となりました。そして、イメージ項目で「エネルギー感がある」「柔軟性がある」「キャンパスに活気がある」などが 1 位になっていることは喜ばしいことです。**建学の精神《学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ》が息づく中京大学に入って力を伸ばしたい、と学生が集まることを願っています。**

受験を控える方々には、コロナに負けることなく、希望をもって目標を目指してください。エールを送ります。

そして「来たれ、中京へ！」

**aiming for the 100th anniversary of Umemura Educational Institutions in 2023
and the 70th anniversary of Chukyo University in 2024**
(2023 年の学園創立 100 周年、2024 年の大学創立 70 周年を目指して)